令和7年度第1回秋田県入札制度適正化推進委員会の概要について

- 1 日 時 令和7年7月31日（木）午後1時30分から
2 場 所 秋田県教育会館3階 B会議室
3 出席者 委員長 面山 恭子
委員 徳重 英信 加納 静佳
佐々木 寿一 渡辺 純也

4 議 事

(1) 報告事項

- ① 県発注工事に係る入札・契約手続の運用状況について
－ 質疑・意見等なし －
② 指名停止等の運用状況について
－ 質疑・意見等なし －

(2) 審議事項

抽出案件① 《教育庁総務課施設整備室：

栗田支援学校厨房機械設備工事、
金農業高等学校管理教室棟機械設備工事》

佐々木 委 員 工事価格の積算について、「営繕工事標準単価」にない項目については見積もりをとっていると思うが、業者見積額をそのまま採用しているのか教えていただきたい。

もし、見積額からさらに低減しているのであれば、見積徴取する必要がないのではないかと伺いたい。

営 繕 課 秋田県営繕工事単価決定要領に基づき、市場の実態を調査し、低減処理を実施している。国の基準でも同様であり、この点についてはご理解いただきたい。

佐々木 委 員 給排水暖冷房衛生設備工事の入札参加者が少ない傾向にある要因として技術者不足をあげているが、JV発注の要件を緩和するなどの考えはないのかお聞きしたい。

建設政策課 災害復旧工事においてJVに発注する金額を引き上げて運用している実態があり、技術者不足に対して有効であると実感しているため、今後検討をしていきたい。

面 山 委員長 入札参加者数が少ない要因が技術者不足で、今後県内の技術者が増える見込みがないならば、地域要件を県外に広げるという考えはないのかお聞きしたい。

建設政策課 給排水暖冷房衛生設備工事の入札参加者が少ない状況については、JVに発注する基準額の引き上げや、地域要件の拡大など多方面から総合的に検討していきたい。

抽出案件② 《秋田地域振興局建設部：地方道路改築補助工事 06-HF31-50》

渡辺委員 総合評価落札方式を採用しなかった理由が、年度末の発注で発注件数が多いため受発注者双方の負担軽減のためとしているが、発注時期が通常の場合であれば総合評価落札方式を採用していたのか教えていただきたい。

秋田地域振興局 通常の場合の発注であれば総合評価落札方式を採用していたと考えている。

面山委員長 年度末は総合評価落札方式による発注が少なくなると理解してよろしいか。
また、総合評価落札方式の発注が少なくなることにより工事の完成に問題が発生したということは無かったか、教えていただきたい。

秋田地域振興局 年間を通じて全体の半数を目安に総合評価落札方式で発注することとしており、より高い技術力を要する工事を選定している。年度末の発注が重なる時期は価格競争で実施しているが、問題が発生したということはない。

徳重委員 総合評価落札方式を採用せずに、工事の完成に問題が無ければ、総合評価落札方式をやめるという考えはないかお聞きしたい。

技術管理課長 総合評価落札方式で発注した工事とそうでない工事において、4000万円以上の工事と比較した場合、工事成績評定点に差が生じている。そういった点を踏まえると総合評価落札方式を実施する効果はあるものと考えている。